

保健福祉会について

1. 保健福祉会とは

自治会の中の身近な生活の場で、住民同士がお互い助け合い・支え合い小地域福祉活動を推進するための組織です。

2. 社協が「保健福祉会」を立ち上げた経緯

「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしたい」このことは全ての人の共通の願いであります。しかしながら、現在の社会環境は、「向こう三軒両隣」のような近所同士のつながりは薄れてきており、このような人間関係の希薄化は、地域に様々な影響を及ぼし高齢者の孤独死や、高齢者・児童虐待の発見の遅れ、引きこもりなどの問題が生じてきています。

このような問題を解決し、地域の中で安心して暮らしていくためには、個人の問題ではなくみんなの問題としてとらえ、お互いに協力し、支えあう助け合いの活動が必要となってきました。その活動を地域全体の支え合いネットワークへと発展させるために、社協は平成 16 年 10 月に「保健福祉会」を立ち上げ、この事業の推進に取り組んできました。

3. 保健福祉会の設置状況

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
設置率	93%	93%	96%	96%	96%	97%	97%	96%

4. 保健福祉会で重点をおいていること

(1) 地域の福祉力を高めるための組織化

ネットワーク活動を自治会全体の活動とするため、原則、区長を保健福祉会の会長として取り組んでいただいています。

(2) 一人暮らし高齢者・二人等の見守り・安否確認

高齢者の孤独死（孤立死）の防止、悪徳商法・振り込め詐欺等の防止につながります。見守り・安否確認をすることにより孤立するのを防ぎ、精神面における支えとなります。電話をかけたたり訪問することにより、高齢者の困りごとや相談に応じることが出来ます。

(3) ふれあい・いきいきサロンの設置

○ なぜ社協がサロンの設置に力を入れるのか。

サロンを開催することにより参加者は、地域の中での集いの場、仲間づくり、生きがいくくり、閉じこもり防止等につながります。

また、地域の効果として、地域交流や異年代交流の拠点となります。

サロンを開催することで、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の人が参加し、世

代を超えて触れ合う機会ができます。

その他、地域の福祉力が高まり、支え合い・助け合いの活動につながり、生活上の困りごとや心配ごとの発見につながるメリットがあります。

○いきいきサロンの開催回数

仲間づくりや閉じこもりを防ぐ意味から月1回以上のサロンの開催が望ましいのですが、自治会の状況もあり集い（数回/年）の開催からお願いしています。

◇いきいきサロンの設置状況◇

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
設置率	47%	82%	89%	91%	94%	95%	95%	95%

(4) 支えあいマップづくり

支えあいマップは、支援が必要な人と周辺の住民との関わりを地図上の線で結ぶことにより地域の課題が明らかになり、助け合いをすすめることが出来ます。

また、危険箇所や消火栓、災害時の避難方法を明らかにし地域がどのような環境にあるのかをあらかじめ知っておくことができ、緊急時に役立ちます。日頃の住民同士の見守り活動が災害時に大きな力を発揮することから、全自治会にマップづくりに取り組んでいただけるようお願いしています。

年度	H27年度まで
実施自治会数	29

湯梨浜町自治会数：75

5. 保健福祉会の補助金

保健福祉会の補助金は、住民の皆様からいただいた会費・寄付金・介護保険収入を財源として各自治会へ活動費として助成しています。（H27年度：3,244,200円）補助金の算出は均等割り20,000円と世帯数割（世帯数×300円）で計算し、平均の補助金額は44,000円となっています。

補助金は、保健福祉会の交流活動やサロンの活動に使っていただいています。

6. 保健福祉会の方向性

今までの保健福祉会の活動は、住民同士の交流活動やふれあい・いきいきサロン、一人暮らし世帯等の見守り・安否確認が主でしたが、今後は住民同士の生活支援ネットワークづくりを重点に進めていきたいと考えています。

自治会の中での助け合い・支えあいシステムづくり、何かあった時の緊急時の対応、問題の早期発見、自治会で解決出来ない場合には社協や包括支援センター等関係機関につなぐしくみづくり。一人暮らしであっても、障がいがあっても、誰でもが安心して暮らせる地域づくりを目指して小地域福祉活動を推進していきたいと考えています。